

「病院、児童福祉施設の子どもたちが
自己肯定感を高め、 コロナ禍の今をのりこ
える、 あそび・交流ワークショップ体験」

報告書



新型コロナウイルス感染拡大と長期化の影響を受け、病院、児童福祉施設の子どもたちは、あそぶことや新たな出会いや体験、気持ちを発散する機会が失われ、制限と我慢と単調な日常生活を送っている。ウィズコロナの今、ワクワクして自分を表現し、希望につながる楽しくてあそぶ体験が、子どもの成長発達と生きる力に不可欠だ。知恵を出し合い工夫し、安心と安全に配慮して子どもたちの自己肯定感を高めるあそびと交流のワークショップを届ける。

主催：特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉2-17-6 サンコート新千葉102号

TEL：043-301-7262 FAX：043-301-7263

Email:kidchiba@lily.ocn.ne.jp URL <http://chiba.gekijou.org/>

後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会 千葉県医師会 千葉県小児科医会

ワーク実施一覧 1-8 病院・児童相談所



	病院・施設名	実施日・時間 実施場所	プログラム名 指導者	指 導 者	協 力 者	子 ど も	大 人	参 加 総 数	参加人数内訳
1	国府台病院	12月2日(木) 10:10~12:10 院内学級運動場 小学教室	「わくわく工作オンリーワン を作ろう!」 濱美幸 井澤智子 奥あゆみ 勝部久美子	4	4	28	14	42	総数 42人 子ども 28人(小学生7人 中学生21人) 大人 14人(教師9人 医師2人 ボランティア3人)
2	市川児童相談所	8月20日(金) 9:45~11:45 講堂	「ダンスワークショップ」 安西真幸 安西千紗 棚田純子 中村幸恵	4	2	33	8	41	総数 41人 子ども 33人(幼児7人 小学生12人 中学生14人) 大人 8人(施設関係者)
3	君津児童相談所	10月5日(火) 13:30~15:30 2F 会議室	「見たこともない生き物をつ くろう!」 永野むつみ 大沢直 椎名好子 棚田純子	4	2	26	14	40	総数 40人 子ども 26人(幼児6人 小学生14人 中学生5人 高校生以上1人) 大人 14人(指導員5人 保育士9人)
4	東上総児童相談所	10月5日(火) 13:00~15:00 2F 多目的室	「ダンスワークショップ」 安西真幸 安西千紗 白鳥みゆき 買場都明	4	2	17	6	23	総数 23人 子ども 17人(幼児3人 小学生9人 中学生5人) 大人 6人(施設関係者)
5	柏児童相談所	10月19日(火) 13:25~15:30 さわやかちば県民 プラザ情報研修室	「人形劇&工作ワークショ ップであそぼ!」 納富俊郎 納富祥子 棚田純子 中村雪江	4	2	52	15	67	総数 67人 子ども 52人(幼児16人 小学生10 人 中学生22人 高校生4人) 大人 15人(保育士 児童指導員)
6	銚子児童相談所	10月26日(火) 13:25~15:30 2F 大会議室	「見たこともない生き物をつ くろう!」 永野むつみ 大沢直 滝口淳子 綿貫のばら	4	2	15	5	20	総数 20人 子ども 15人(幼児4人 小学生7人 中学生4人) 大人 5人(保育士4人 事務職1人)
7	中央児童相談所	11月19日(金) 10:30~14:00 4F 多目的室	「はじめておどろう!ダンス ワーク」 安西真幸 安西千紗 買場都明 宇野京子	4	2	61	14	75	総数 75人(子ども 61人 大人 14) ①子ども 23人(幼児12人 高校生女 子11人) 大人 7人(指導員・保育士6人 一時 保護課長1人) ②子ども 38人(小学生14人 中学生 ~高校生24人) 大人 7人(指導員・保育士6人 一時 保護課長1人)
8	千葉市児童相談所	12月7日(火) 9:30~11:30 スポーツ広場	「BBモフランのアフリカン パーカッション」 BB モフラン ダウディ 典子 綿貫のばら	4	3	37	5	42	総数 42人 子ども 37人(幼児11人 小学生14人 中学生9人 高校生3人) 大人 5人(施設職員5人)

ワーク実施一覧 9-18 児童福祉施設



	病院・施設名	実施日・時間 実施場所	プログラム名 指導者	指導者	協力者	子ども	大人	参加総数	参加人数内訳
9	障害児通所 支援事業所 大成会 本城ルーム	7月31日(土) 10:00~12:00 活動室	「エプロンシアター&いろいろ作ってあそぼう」 飯野真子 松本祐子 多田優子 高橋裕美	4	3	11	6	17	総数 17人 子ども 11人(小学生7人 中学生3人 高校生以上1人) 大人 6人(施設関係者)
10	児童養護施設 野の花の家	8月23日(月) 13:30~15:30 ホール	「ダンス ワークショップ」 安西真幸 安西千紗 宇野京子 大迫美津枝	4	2	19	16	35	総数 35人 子ども 19人 ①幼児~小学校1,2年生9人 ②小学校3~6年生10人 大人 16人(施設関係者)
11	児童養護施設 一宮学園	10月10日(日) 13:30~15:30 体育館	「あそびの出前や」 大潤弘幸 岡本圭 白鳥みゆき 滝口淳子	4	4	22	13	35	総数 35人 子ども 22人(幼児2 小学生20) 大人 13人(教師 6 保育士 3 研修生 4)
12	放課後等デイ アフタースクール センター むぎ畑	11月16日(火) 14:00~16:00 メインルーム	「キラキラふんわり~秋のクラフトタイム~」 大塚ろい 大山菜穂子 堀米良子 白鳥みゆき	4	0	9	5	14	総数 14人 子ども 9人(小学生4人 中学生5人) 大人 5人(施設関係者5人)
13	放課後等デイ ・ハクナマ タタ	11月17日(水) 15:00~17:00 活動ルーム	「革のアクセサリを作ろう」 楠千枝子 井澤智子 北川妙子 佐々木由紀子	4	2	10	5	15	総数 15人 子ども 10人(中学生5人 高校生5人) 大人 5人(施設関係者5名)
14	松戸市 野菊野こども 館	11月21日(日) 13:00~15:00 ホール	「体をつかっていっしょにあそぼう」 大潤弘幸 岡本圭 岡田泰子 買場都明	4	2	20	4	24	総数 24人 子ども 20人(小学生20人) 大人 4人(施設関係者4人)
15	児童発達支援事業所 「結」	11月29日(月) 9:30~11:30 保育室1	「ふわふわどうぶつさんとあそぼう」 加形ふみ子 斯波優江 大嶋敦子 買場都明	4	2	10	6	16	総数 16人 子ども 10人(幼児10人) 大人 6人(理学療法士 施設関係者)
16	放課後等デイ グリーンヒル キッズゆりの き台	12月28日(火) 13:30~15:30 ゆりのき台教室	「おはなしと色々青虫ストラップづくり」 松戸照子 越後久美子 中川香子 鈴木佳子	4	1	8	4	12	総数 12人 子ども 8人(小学生7人 中学生1人) 大人 4人(施設関係者)
17	児童養護施設 ほうゆう・キッズ ホーム	1月4日(火) 13:30~15:30 地域交流スペース	「おもいっきりごいてダンスワーク」 安西真幸 安西千紗 買場都明 棚田純子	4	3	31	4	35	総数 35人 子ども 31人(幼児9人 小学生 中学生高校生22人) 大人 4人(施設関係者)
18	放課後等デイ グリーンヒル キッズ村上	1月10日(月) 13:30~15:30 村上教室	「おはなしと色々青虫ストラップづくり」 松戸照子 中川香子 鈴木佳子 棚田純子	4	1	5	2	7	総数 7人 子ども 5人(小学生5人) 大人 2人(管理者1人 児童指導員1人)
	合計			72	39	414	146	560	

①国立国際医療研究センター国府台病院「わくわく工作!オンリーワンを作ろう!」

日時：2021年12月2日(木) 10:10~12:10

場所：院内学級の運動場と教室

参加者 42人

(子ども28人 病院関係者11人 ボランティア指導者3人)

指導者：濱美幸 勝部久美子 井澤智子 奥あゆみ

ワークショップの内容

キラキラビー玉の万華鏡

革細工

ビーズのストラップ



だんだんリラックスし質問や会話も弾んできた。できたビー玉万華鏡を覗いて「きれい!」。ビーズは2・3個作っている子がたくさんいた。「海をイメージしてだんだん濃い色にしたい」と、色を選んでいる中学生も。たくさんの革に触りながら「カンガルーの革かな?におもん。」うまく切れないで「硬いな。」という子が、よく切れるハサミを使うと、「いっぱい切れるすごい。」と感動の声。革のひもをぐるぐる巻きつけてボールのようにした子、新種の動物と言っていた。ゆっくりペースの子も自分のペースで最後までやり遂げた。小学生で革にたくさん穴をあけていた子、見事な穴あけ技術で「三角定規入れ」を作った子や、大きな作品を作っている子もいて、子どもたちの「作り出す力」に驚かされた。女の子たちは、やっぱり「かわいいもの」に敏感で微笑ましい。



子どもの声

- ・今日頑張ったことは楽しむこと。どの工作も楽しくて時間が過ぎるのが早かった。みんな優しく質問がしやすかった。それも楽しめた一つの理由だと思う。
- ・革工作で何を作るか考える時間が楽しかった。
- ・万華鏡を上向きで見るか下向きで見るかで光る感じが違うのが面白かった。
- ・完成品ができた。来年は卒業だけど、この体験を忘れない。

施設関係者の声

- ・「自分は何もできないと思っていたが、やってみたら意外とできた。」「やればできるかも、」と言う声を聞き自己肯定感の高まりにつながって行ったと感じた。
- ・いつもは教室に来られない生徒も貴重な体験として夢中になっている姿が見られた。
- ・自分で作ったものを自慢げに見せたり、作品を見た人のリアクションによって自己肯定感向上が図られこの取り組みをきっかけに工作が趣味になる子もいると思う。この先、生きていくうえでQOLの向上にもつながると思った。

②千葉県市川児童相談所「ダンスワークショップ」

日時：2021年8月20日(金) 9:45~11:45

場所：2F 講堂

参加者 41人

(子ども33人 施設関係者8人)

指導者：安西真幸 安西千紗 棚田純子 中村幸恵

ワークショップの内容

こんなのできる?体ほぐし

エアークッチボール

曲に合わせてダンス



体ほぐしから幼児「見てー」「できた!」「むじゅかしいな」と元気な声を出しながら足を上げたりのびのびと楽しんでた。指導者まあちゃんに「お〜、いいね!」「やわらかいね」と言われ得意顔。小学生は手をつなぎ二人組で息をそろえておきあがることに、「むりむり」、「できた!」徐々に緊張が解け、いつのまにか笑っていた。「鳥の羽が降ってきます」と言われ「そんなわけないじゃん」「あった」そして無重力の表現になった。靴がスーパーボールになったら?自分なりに動いていた。あいーンポーズをつけて踊ったり曲に合わせてみんな楽しそうにはじけて踊った。「楽しかった」「徐々に体を動かした!」の声がたくさんだった。中学生は、体も硬く、なんか遠慮しいいストレッチしたり、ステップを踏んでいたが、イメージ遊び(見ないボール、スイカを投げ合う...)を重ねた後のダンスはとっても表情も表現も豊かになってきた。想像する力って気持ちも体も柔らかくするんだね。指導者との会話も楽しんでた。

子どもの声

- ・普段ダンスをしない自分が意外にも出来ていてとてもビックリした。
- ・ダンスが楽しかったので またいつかおどりたい
- ・ひきびさにいっぱい体を動かして、良い汗をかけた。
- ・ダンスして「なんかちょっと新鮮だな」と思った自分がいた!
- ・ダンスがとっても好きになった。ダンス1つで、こんなに楽しくなるとは思ってなかった。
- ・良い曲ですごい良かった。イメージしてやるキャッチボールもおもしろかった〜。

施設関係者の声

- ・ダンスをしている時の子どもたちの表情は明るく、普段できない経験をすることで楽しい思い出が強く残ったと思う。得意苦手に関わらず、音に合わせて動くことや名前を呼んでほめてもらうことが自信につながったと思う。自己肯定感も高まったと思う。
- ・子どもたちにとって楽しく、有意義な時間であったと思う。羽を受け取るなど難しいと思われたことが、徐々に表現でき、先生たちに「いいよ」「できてるよ」と誉められ認められたこと、満足度があがったと思う。

③千葉県君津児童相談所「見たこともない生き物をつくろう！」

日時：2021年10月5日（火）13:30～15:30

場所：2F 会議室

参加者 40人

（子ども 26人 施設関係者 14人）

指導者：永野むつみ 大沢直 椎名好子 棚田純子

ワークショップの内容

人形劇実演

私のオリジナルな生き物づくり

作品披露と気に入っているところの発表



色とりどりの紙や封筒、マスキングテープやテープ類が美しく並べられ、会場に入った子どもたちは「わ！？すごい」「きれい！」と、顔がぱっと明るくなった。作り方デモンストレーションで「例えばね」と、工夫で作品が変わっていき、イメージが膨らんだ。「思うまま、いっぱい想像してね」「さあ！作ってみよう！」まずは封筒か紙袋を「くしゃくしゃとおにぎりのようにまるめ、開いて手でアイロンをかけて伸ばす」を2回繰り返す。「こうすると紙はとっても強くなり破れない。きれいな封筒や紙袋はやぶれやすい。人間もそうだよ！」さりげなく子どもたちへのメッセージも。子どもたちは何度も材料に行き来し、道具を上手に使い、隣同士で見合ったり嬉しそうに会話し伸び伸びと作った。幼児もテープ貼りや型抜きを楽しんだ。指導者はいいところを引き出し、工夫したところを褒めていた。最後にみんなで作品を披露。一番好きなどころ工夫したところを発表。「全部が好き！」と自信に満ち、大事そうに見せ合い満足そうだった。



子どもの声

- ・じぶんひとりではできないこうさくでうれしかった。べろがじょうずにできてうれしかった。
- ・少し工夫をするだけでいろんな作品を作れるのがすごかった。またきてください。
- ・人形の三つ編みをしたとき、とってもほめてくれてうれしくてたのしくなりました。

施設関係者の声

- ・こうした機会があってよかった。子どもの想像力が豊かだと思った。大人の自分たちもいい体験ができた。たくさん材料で無制限に使っていい等、普段はこうはできない。
- ・それぞれが个性的で全員が作品を完成でき、自信が持てた。自分の作品の良いところを「全部気に入っている」と、多くの子どもたちが話していて自己肯定感や QOL 向上につながった。

④千葉県東上総児童相談所「ダンスワークショップ」

日時：2021年10月5日（火）13:00～15:00

場所：2F 多目的室

参加者 23人

（子ども 17人 施設関係者 6人）

指導者：安西真幸 安西千紗 買場都明 白鳥みゆき

ワークショップの内容

ストレッチ 幼児(表現あそび ♪さんぽの曲でオリジナルダンス) 小学生以上(♪うっせいわの曲でオリジナルダンスを作る)



子どもの声

- ・楽しかった。ダンスに興味をもった。上手に楽しく教えてくれて、嬉しかった。ママやパパにもおしえてあげたい。
- ・ダンスは人とつながることができるし、いやな気持ちもふっとばすことができることを知った。これからは自分の切りかえにおどってみようと思う。
- ・ダンスの中に自分が嫌だと思うことやイライラしたことを踊りで表現するのが面白かった。また次にダンスを踊る機会があったら、もっと楽しく踊って心をスッキリしたい。
- ・ぼくはダンスができず苦手でした。ですが、できていない所でも得意な所でもほめて下さり少し自信が持てた。

施設関係者の声

- ・最初は気おくれしたような様子でしたが、次第に気持ちがほぐれてきて、伸び伸びと動いている子どもたちの姿が見られて、とても嬉しくなった。
- ・身体を動かすことでの発散もできていたように感じる。人前で表現することが苦手な子どもも指導者(モデル)を見て、楽しそうに表現しているのが見受けられた。
- ・ダンスの楽しさを実感した子、自分の体の柔らかさに気づいた子など自己肯定感や QOL に良い影響があったと思う。



幼児/名札が「ねこちゃん」の男児は名前を呼ばれて「にゃー」と返事、飛び跳ねたりワクワクの気持ちが伝わってきた。色々な音を聞いて体を動かし自由に表現した。曲にのり、みんなニコニコ笑顔。女子/ストレッチ、指導者のさりげない言葉で心もほぐれていく。日頃の嫌なことをダンスにしようの呼びかけに「なにその迷惑なダンス」と。お風呂や嫌なことに様々な反応で盛り上がる。曲に合わせてどんどん気持ちが乗ってきて、大きく手足を動かして踊った。個性の爆発。男子/小学生のリクエストで♪パプリカを踊ると、曲を聞きつけ廊下で幼児も踊りだした。ストレッチで「無理」と言いながらも和やかな雰囲気。シャキーンポーズから大きく動き指導者とのコミュニケーションを楽しんでユニークな振り付けが完成。自分流に変えたり、みんなで感動した思いっきりのアクション。

⑤千葉県柏児童相談所「人形劇&工作ワークショップであそぼ！」

日時：2021年10月19日（火）13:25～15:30
 場所：さわやかちば県民プラザ 情報研修室
 参加者 67人
 （子ども 52人 施設関係者 15人）
 指導者：納富俊郎 納富祥子 棚田純子 中村雪江

ワークショップの内容

- ・人形劇「こぶたぬきつねこ」「スーパー人形劇」「おじいちゃん」「赤ずきんちゃん」
- ・工作「ぱたぱたちょうちょ」



肩掛け人形芝居

「こぶたぬききつねこ」でコップから人形が飛び出し引っ込む、踊る…で一気に引き付けられた。「スーパー人形劇」はスーパーの袋に空気を入れて変身したかえる、カンガルー、カメレオンの小芝居に指さして笑い「もう一回！」とリクエストがでた。「赤ずきんちゃん」の肩掛け人形劇の舞台からオオカミが飛び出すと「オモシロイ！」「どうなってんだ？」、赤ずきんちゃんに「ウワーかわいい！」「赤ずきんちゃん逃げて～！」「オオカミさんじゃな～い！オオカミさん！」と小学生が大笑い。気の弱いオオカミと賢い赤ずきんちゃんのかげあいに、中・高生もお腹を抱えて笑っていた。工作では、見本の動きを見せ「どんなふうにしてもいいよ～」と言われると一斉に色とりどりの色紙、キラキラ光る大小のシール、穴あけパンチのところから、好みの材料を探した。ちょうちょの羽根いっぱいシールを張り、穴あけパンチをすする子や最小のかざりだけの子に「もう完成形？」と訊くと「ハイ！」と満足な顔。

子どもの声

- ・人形劇を見たり動くちょうちょをつくったりとても楽しかった。
- ・赤ずきんちゃんとおばあちゃんがオオカミに食べられちゃうとことか、オオカミがハチにさされちゃうとことかおもしろかった。オオカミのお腹を切って糸でぬうのはびっくりした。
- ・人形劇をみるのは初めてで、本当に動いているようだし、それぞれのキャラクターに合わせていて、声もすごい。
- ・赤ずきんちゃんとおオオカミの会話も少しふざけていてとてもおもしろかった。
- ・作ったちょうちょは宝物にして、家でも妹と一緒に作ってみたい。

施設関係者の声

- ・ハサミを使う工作は施設ではやっていないので、今日は思い切ってやってみる日だった。子どもたちの満足そうなようすをみて今日はよい一日だった。さすがにプロはすばらしい。大人も楽しんだ！



ぱたぱたちょうちょ

⑥千葉県銚子児童相談所「見たこともない生き物をつくろう！」

日時：2021年10月26日（火）13:25～15:30
 場所：2F 大会議室
 参加者 20人
 （子ども 15人 施設関係者 5人）
 指導者：永野むつみ 大沢直 滝口淳子 綿貫のぼら

ワークショップの内容

- 切り紙しながら人形劇
- 工作ワークショップ
- 作った作品を発表



永野さんの紙で切った人形の変化に「うわー魔法だ、見たことがない」と、びっくり。迷いながら選んだ紙や封筒で作り始める。「おしゃれだね」と保育士が声をかけると笑顔になった。「シュレッター好き？」と聞くと「面白くて気持ちがスッキリする」。ピンクの生き物を作った幼児は、みんなに「かわいい～！」と褒められて嬉しそうにスタッフにも「みてみて」と自慢してきた。作品をゆっくり丁寧に作っている子、「シュレッター」でうまれた紙屑から「可燃ゴミラ」を誕生させた中学生が、最後まで一生懸命作っていた。「ねー見てみて」という声がたくさん聞こえてきた。作った作品の名前、どこに住んでいるか、どんな生き物かを発表した。「悩みを吸い取ってくれる、すいとってくれたから、もう大丈夫」「元気もりもり星の海に住んでいる、悩みはない、何も考えないから」「春にしか生きていない、食べものは桜の花びら」「食べ物有機物、二酸化酸素出さない、新しい生き物です」「楽しくて、ストレスたまっていたけどすっきりした」と、みんないい笑顔になっていた。

子どもの声

- ・ふうとうやスズランテープなどでふしぎな自分だけの動物ができて楽しかった。
- ・あんなものが作れてとてもうれしかった。また作ってみたいと思った。
- ・みんなとせんせいにあえてうれしかった。またきてね。あのおんがくも（オルゴールの曲）

施設関係者の声

- ・褒められ、認められる経験が少ない子どもたちなので、経験が積められたと思う。
- ・自由に作ったり遊んだりできる場を設けていただいて大変ありがたかった。
- ・自分で考え、自分だけの表現をする機会は大変よかった。作ったものを発表、拍手してもらう場があるのは、自己肯定感が上がるきっかけになると思った。



⑦千葉県中央児童相談所「はじけておどろう!ダンスワーク」

日時：2021年11月19日（金）10:30～14:30

場所：4F 多目的室

参加者 75人

（子ども 61人 施設関係者 14人）

指導者：安西真幸 安西千紗 買場都明 宇野京子

ワークショップの内容

午前 柔軟体操

ダンス「おどるポンポコリン」で

午後 柔軟体操

ダンス「群青」でオリジナルに



子どもの声

- ・ひとつずついねいに教えてくれて、踊りもきちんと教えてくれた。ダンスあまり好きではなかったけど、今日、皆でダンスをして「またやりたい!」「もっと踊ってみたい!」と思った。
- ・今日のあの時間、半分以上笑顔で過ごせた。楽しくて、そして難しくて…忘れたくない思い出になった。たくさんの人と一緒に踊る…。すごく楽しかった!
- ・もういっかいやりたい。ダンスたのしかったよ。またやってみたいよ。おしえてくれてありがとう。くるくるがたのしかった。



施設関係者の声

- ・楽しんで体を動かしており、自然と笑顔も出て、皆が伸び伸びと動いて表現して、笑っており、とても良い時間でした。成功、失敗にとらわれない活動で、肯定感にも繋がったと思います。

背筋を伸ばして縮めて、足のストレッチ。ダンスの素材になる足じゃんけん、トントンパと手をたたきジャンプ等のパターン。幼児と2人組で高校生のお姉さんは幼児に合わせながら笑顔でやさしい表情。「今度はくりりとひっくり返すよ!」と背丈の違う2人が挑戦。音楽に合わせて踊る。「いいですね～できてる!できてる!」指導者の誉め言葉が響く。午後小中学生は、動く度に大きな声が出た。背中を合わせて立ち上がる動きがなかなかうまくいかない。6人組の男子が成功しうれしくて大騒ぎ。それを見て6人組の女兒集団が悔しがって何度も挑戦した。「いっせーのーせ!」大声で掛け声をあげた。応援団が周りを取りまいて声援を送り、いつの間にか会場の一体感がうまれていた。指導者は、「いいね!それ採用!」と、子どもの動きを見逃さず取り入れた。音楽に合わせて踊り楽しくてたまらないという表情でリラックス。オリジナルなダンスになった。満足そうな顔 顔 顔。とても素直な子どもたちがいい顔をしてこの時間を共有できた。

⑧千葉市児童相談所「B. B. モフランのアフリカンパーカッション」

日時：2021年12月7日（火）9:30～11:30

場所：スポーツ広場

参加者 42人

（子ども 37人 施設関係者 5人）

指導者：B. B. モフラン ダウディ 典子 綿貫のぼら

ワークショップの内容

手作り楽器作り ジャンボ

歌。ライオンキングから2曲

楽器紹介 リズムあそびチャレ

ンゾコーナー マメ マライカ

ダンス



アフリカの太鼓の体験

太鼓を叩きながら入場する指導者を手作り楽器をならして迎えた。最初は緊張している子どももいたが、だんだん緊張もほぐれ、幼児も一生懸命自分の楽器を振りリズムに乗って楽しんでた。モフランさんがトーキングドラムで「赤とんぼ」を演奏したら、みんなで歌いだした。リラックスしてきた。アフリカ語で「ミソ」は「目玉」という意味だと聞くと「エッ!」とビックリ。アフリカと日本の違いを感じ「じゃあ目玉ラーメン?」と笑い合った。太鼓ワークでは、すぐに太鼓に駆け寄って行った子が多かった。「ぶーたにく豚肉」「食べたいなー」というリズムの取り方に始めは驚いたようだったが、初めてアフリカの太鼓にふれて楽しそうだった。最後もう1人できる時、高校生の男子が自分もやりたかったが小学生に譲った優しい場面も見られた。ダンスでは、みんな思いっきり楽しんだ。「スーパーダンサー」として小学生の男子が指名され前に出て得意そうに踊った。先生方も子どもたちと一緒に盛り上がり楽しんだ。



まず手作り楽器(マラカス)をつくったよ

子どもの声

- ・楽しい時間をすごすことができました。ありがとうございました。
- ・いろんな楽器の音がきれいだった。最後のみんなでやったダンスがすごく楽しかった。
- ・たいこを初めてたたいた。緊張したけど楽しかった。
- ・ライオンキングの歌やマメなど(メ、カタコリ～)を聞きましたよ!とても楽しかったあ!

施設関係者の声

- ・少しずつ子どもたちが、リズムをとっていく様子が目に見えてわかった。リズムや音楽は人の体を心を動かす。楽しい時間をありがとうございました。
- ・小学校高学年以上になると、照れたりふてくされたりする姿もあるかと思っていたが、アフリカミュージックのリズムに乗って良く楽しめていたのが印象的だった。
- ・将来を生きぬく子どもたちの何らかの貴重な経験となり、より豊かな生活に向けての基盤の一部となったように感じられる。

⑨障害児通所支援事業所大成会本城ルーム「エプロンシアター&いろいろ作ってあそぼう」

日時：2021年7月31日（土）10:00～12:00

場所：活動室

参加者 17人

（子ども 11人 施設関係者 6人）

指導者：飯野真子 松本祐子 多田優子 高橋裕美

ワークショップの内容

- ・エプロンシアター「はだかの王様」仕掛け絵本「おきなおきなきいろいひまわり」紙芝居「ごきげんのわるいコックさん」大型絵本「ドライブにいこう」
- ・工作してあそぼう フリスビー「タコビー」「サラビー」



エプロンシアター

エプロンシアターが始まると、興味がある子から前に集まってきた。お話に反応する子や遠くから様子を見てる子など色々な反応があり、子どもたちの個性が見えた。コックさんの絵の表情が変わるとよく笑い、消えたコックさんを探して紙芝居の裏に回る子や、飴の数はいくつか聞くと、「セブン！」と英語で答える子もいて反応が良かった。frisbeeと一緒に少し遊んでから「作ってみる？」と聞くと、「作るー！」と元気な声を出して目を輝かせた。好きな色のビニールテープやシールを選んで貼ったり、ペンで線や絵を描いたり、それぞれのこだわりや工夫をしていた。的あてで的に当たるとワーイと両手を挙げてジャンプし、とても楽しそうだった。そのうちに風船を膨らませて的にしたり、いろんな的に目掛けて投げたりと、施設の先生と一緒に子どもたちが遊びをどんどん進化させていった。



作ったfrisbee
で的あて

子どもの声

- ・工作をいっしょに作ってくれて、ありがとうございました。
- ・今日は、楽しかったです!! また、きてください。
- ・一緒に遊んでいた子が急に静かになり、隣で「終わり？」と寂しそうに聞いてきた。

施設関係者の声

- ・お手本の工作がありながらも子どもたち自身で考えながら行い、分からない所は指導者と一緒に手伝っていただき沢山の大人の方たちと関わりながらできて、子どもたちにとっては貴重な体験だった。自己選択、自己決定の場面提供に繋がっていた。
- ・今回1回でどうか・・・ということより、このような満足感を持って遊べたという経験の積み重ねが自己肯定感の向上につながるでしょう。

⑩児童養護施設 野の花の家「ダンスワークショップ」

日時：2021年8月23日（月）13:30～15:30

場所：ホール

参加者 35人

（子ども 19人 施設関係 16人）

指導者：安西真幸 安西千紗 宇野京子 大迫美津枝

ワークショップの内容

- からだほぐし・ストレッチ
- 曲にあわせてダンス

ホールの端から端までピョンピョン飛んで行って帰る。次はケンケン、四つ足歩き。足をもちあげバランス。寝転んだ状態からゴロンと反動をつけて起き上がり、立つ。10人位で手をつなぎ“セエノ〜”の掛け声で一気に立ち上がった。子どもたちは指導者の話に「何でもできるよ〜」「イエーイ！」「ちょっと変！」とか口々に言いながらストレッチした。何度も練習したランニングマンのステップでは、「生まれて初めてのランニングマン」と4人が叫び、キレイの動きを披露。指導者が「スバラシイ！できている」と称賛。紐のついた砂袋を回し、大縄回しのように飛んで抜ける動きは、足に紐が絡まったり、タイミングが合わなかったりとかかなり難しく、本気モードで何度も挑戦。やっと3人一緒に飛んで抜けることができた時、職員も大拍手！「パプリカ」の曲にあわせ、練習したステップで踊り、最後の「空中ポーズ」は自分で考えたポーズで決めた。



手をつないでせーのでおきあがるよ



子どもの声

- ・ちいちゃんとまあちゃんとあそべてうれしかったよ。またきていっしょにおどったりしたい。
- ・ぼくはランニングマンをいっしょけんめいやった。コロナにきをつけてがんばってください。
- ・じゅんぴうんどうやダンス、いろいろなことができてとてもたのしかった。

施設関係者の声

- ・指導者の話をしっかりきいていたのもしきを感じた。何より指導者が楽しんでいて、周囲も明るく楽しい雰囲気になった。
- ・普段の生活では見ることでできない姿を見ることができた。できない子に教えてあげたり、待ってあげたり、できなくてもいじけることもなく楽しむ姿、ワークショップ後も体験したことを楽しんでいる姿など。コロナ禍の制限のある生活の中でも有意義な時間となった。

⑪児童養護施設 一宮学園「あそびの出前や」

日時：2021年10月10日（日）13:30～15:30
 場所：体育館
 参加者35人
 （子ども22人 施設関係者13人）
 指導者：大潤弘幸 岡本圭 滝口淳子 白鳥みゆき

ワークショップの内容

アイスブレイク（震源地は誰だ
 色おに かくれんぼ なりきりか
 くれんぼ） 紙コップでけん玉づ
 くり・ケン玉あそび コマ回し
 お手玉 竹とんぼ



子どもの声

- ・ずっとコロナで遊べなかったから久しぶりだった。みんなに会えた。
- ・はじめてコマをやって難しかった。ありがとう、また来てね。
- ・楽しすぎた。



震源地は誰だ

「色鬼」、指導者の呼びかけにテンションがあがり、色を見つけて楽しんだ。「かくれんぼ」なのに指導者の後について一緒に探した。「なりきりかくれんぼ」で体育館の入り口でお地蔵さんになり、「すごいね！」と言われ嬉しそう。「震源地は誰だ？」は先生も全員参加。リーダーを見つけられなくて、せっぱつまり「今日のおやつをあげるから教えて～」と言うとみんな大笑い！「買収か！」と指導者が言うともまた大笑い！「けん玉作り」では、紙コップを皿につけたり、十字架のような形にしたりと次々と自由に遊びが広がった。そのうちボーリング遊びや銀紙のボールをバスケットゴールに入れたり、マジックで紙コップに絵を描いたりした。本物のけん玉にも挑戦。「こま」は低学年の子も一生懸命あきらめることもなく頑張り、回った時の笑顔は輝き、止まるまでずーっとコマの真上に顔を近づけて見つめていた。コマ回し大会、「せーの！」で誰が一番長く回っているか競争。指導者の技にもビックリ。久しぶりに大勢で遊べて、みんな大喜び、帰り際に「あ～今日は楽しかった！」と男の子が大きな声で言った。



紙コップけんだま

施設関係者の声

- ・遊びの集中力すごかったです。こんなに遊んだのも久しぶりで、全員が夢中になって遊んでいた。子どもたちと一緒に考えてやった。楽しかった とにかくたのしかった

⑫放課後等デイサービス アフタースクールむぎ畑 「キラキラふんわり～秋のクラフトタイム～」

日時：2021年11月16日（火）14:00～16:00
 場所：メインルーム
 参加者14人
 （子ども9人 施設関係者5人）
 指導者：大塚るい 大山菜穂子 堀米良子 白鳥みゆき

ワークショップの内容

（工作3種）くるくるレインボー
 ビーズのキーホルダー
 ふんわり毛糸のカップケーキ

「くるくるレインボー」は、動きのおもしろさに全員満面の笑顔。ちょっと納得がいかない子から「どうしたらきれいになる？」と聞かれ、半分以上やり直したがどうするか尋ねると、やり直したいということだった。きれいになりたいという気持ちが強く、しっかりとやり直し満足感・達成感を持てたようだ。「キーホルダー」の金具が真ん中から動かないように糸で結んで固定した中学生に、指導者が「いいアイデアだね、マネさせて！」と話す、とても喜んで自信を持った様子だった。その後、他の子に教えたり、妹の分も作りたいと妹の好きな色の材料を選んでいった。「カップケーキ」は簡単に短時間にできて嬉しそう。少々うまくいなくても子ども自身の工夫によって可愛い作品になるので満足そうだった。

子どもの声

- ・三つ目完成！！
- ・工作全部大好き！こういうの楽しいね。
- ・アクセサリ作るの楽しい、うれしい。



くるくるレインボーを作る



施設関係者の声

- ・工作を通して作る過程や作品そのものをほめてもらったりと小さな積み重ねが自信につながる。
- ・どの子も「楽しかった」と言っていた！3つの工作を作り終わった後、まだまだ作りたい様子で、自らやる気がわきあがっている子どものエネルギーがすごく感じられた。
- ・新しいことに挑戦すること、工夫することを実践したことや初めて会う人への対応のしかたなど、いつもは見ることが出来ない一面（別の一面）を見て、その子への新しい発見があった。
- ・工作も難しい物から簡単な物と、子どもが自らやれそうな物を選ぶようにしてあり、すべての子どもが成功体験を積めるよう考えられていて自己肯定感や自信につながった。

⑬放課後等デイサービス・ハクナマタタ「革のアクセサリーを作ろう！」

日時：2021年11月17日（水）15:00～17:00

場所：活動ルーム

参加者 15人

（子ども10人 施設関係者5人）

指導者：楠千枝子 井澤智子 北川妙子 佐々木由紀子

ワークショップの内容

革の話

革細工

作品の発表 見せ合い交流



ソファを
修繕した
よ



皮が革になる話、身近な革製品の話で、ベルト、ソファ、太鼓等と子どもたちから声が出る。施設職員に革製作経験者がいて、背中やお腹で厚さが違うなど興味深い話に子どもたちは熱心に耳を傾け、会話を楽しんだ。テーブル毎に用意した色々な革やパーツや飾りのセットを、自分の席で触り選びデザインした。戸惑っていた子も、革に触り指導者と会話しだんだん賑やかに。ジバニャン、指輪、サンタ、三つ編み、、、いろいろな発想で、好きな革を切ったり、貼ったり。部屋の中央の革のプールで「こんな色好き」「これ気持ちいい!」。赤い革に「あたたかい」。「お母さん、弟、自分の分」と考えてしおりを作る子。革で絵を描いて貼り合わせている子は「ワー! いいねえ〜」たくさんの声に目を細めた。気にいった固い革を手が痛いと言いつつ最後まで自分で切って仕上げた子、古いソファのほころびを修繕すると言って夢中になって完成させた子、既存の使い方に捉われず、自分のやりたい事をやりきり個々のセンスが表れ素晴らしい作品が生まれた。見せ合い交流では、「わー、かわいい」「すごい!!」と、みんな、ニコニコして大満足の笑顔だった。

子どもの声

- ・最初は、抵抗してたけど動物の命を無駄にしくなかつたから色々考えて作ってた。作ってるうちに楽しくなってきた。自分で色々デザインや構成を考えて作れたところが楽しかった。「立体的で良いね」って言われて、嬉しかった。
- ・いい感じにつくれてよかったです。
- ・とても楽しかったです。たいせつにします。

施設関係者の声

- ・想像以上に子どもたちが意欲的に取り組んでいて、個性あふれる作品作りを楽しんでいたのに驚いた。慣れない素材ならではの苦労(切り、貼りが難しいこと)を自分の力で克服する体験ができたこと、出来上がった作品を持ち帰るだけでなく発表しみんなに見てもらい拍手を受けたことで自己肯定感が得られたと思う。

⑭松戸子育てハーモニー 野菊野こども館「体をつかっていっしょにあそぼう」

日時：2021年11月21日（日）13:00～15:00

場所：ホール

参加者 24人

（子ども20人 施設関係者4人）

指導者：大潤弘幸 岡本圭 岡田泰子 買場都明

ワークショップの内容

色おに 歩こう歩こう 震源地は

誰だ かくれんぼ おてだま

紙コップけん玉を作ってあそぼう



「おにさん、おにさん、何色ですか」に「みどり」「きいろ」「つるつる」「しわしわ」「ざらざら」「しましま」「みずたま」あつという間に空気がゆるみ、全員で洋服や会場を走り回り、色を探した。「♪歩こう 歩こう」の曲を歌って途中でポーズを入れるよ! カラス、ゴキブリ、ミズ、ヘビ、500円拾った! のフリをみんなから募集、キャーキャー言い大笑いと汗をかき、心をリラックスする準備体操だった。「かくれんぼ」、すみっこやカーテンの陰、人がつくったトンネルの中などでクスクス笑いをこらえ、「み〜つけ!」と言われてげらげら笑った。緊張→解禁は遊びの基本!「おてだま」1個から少しずつ難易度をあげているんな体の動きで遊んだ。2人組で背中受けるのはかなり難しい、施設職員も入って子どもと挑戦した。指導者のけん玉披露に「おおまくん、うまーい」と声が出た。紙コップけん玉を作り、myけん玉に挑戦。短い糸だと難しそうだが、膝を使って何度も練習しクリアできるようになると、自慢げに職員やスタッフに見せて回っていた。それを素敵と認める人がいて、湧き上がる気持ちをそのまま受け止めてもらえて満足し、夢中になって嬉々として遊び、2時間があつという間だった。

子どもの声

- ・おおまくんとまたあそびたい。またきてほしい。けん玉をつくってあそんだのが楽しかった。
- ・思ったよりからだを動かしたので、運動不足をかいひできた。とてもたのしくおもしろかった。今度は、コマ回し、けん玉、なわとびもやりたい。

施設関係者の声

- ・コロナ禍で行事やあそびも制限されてきた子どもたちが、思いっきり遊べ、子どもたちの一体感が生まれた。遊びや工作、お絵かき等も、子どもたちそれぞれがオリジナリティー溢れた表現をしていた。

⑮児童発達支援事業所 結「ふわふわどうぶつさんとあそぼう」

日時：2021年11月29日（月）9:30～11:30
 場所：保育室1 園庭
 参加者 16人
 （子ども10人 施設関係者6人）
 指導者：加形ふみ子 斯波優江 大嶋敦子 買場都明

ワークショップの内容
 パネルシアター「おふとんだれ
 のかな」「まほうのたまご」
 ふわふわどうぶつ作り
 どうつさんとお庭で遊ぼう



パネルシアター「まほうのたまご」
 三角の卵からロケットが…

登園時、可愛い指人形でおはようのご挨拶。人形に惹かれさわったり指導者とおしゃべり、「やりたい」と自分で人形に手を入れた。パネルシアタータイム。初めてのお話には、先生の膝でじっと見る子や内容をつかんで声を出したりと興味津々。音楽がなると、体がノリノリで弾みだす子たち、出てくる動物の真似っこも楽しそう。ぺろぺろニャーと言ったら、みんなニャオーと猫のポーズを楽しんだ。カブトムシとクワガタの土俵ですもうとりになってドスコイ。風船工作は、好きな色の風船を選び、シールやスポンジの耳等を貼る。シール貼りが大好き、「べったん」と言いながら、ぺたぺた夢中になって貼った。耳や目がつくとニコニコ、出来上がった「風船さん」を連れて走ったり抱っこしたり嬉しそう。庭でかくれんぼ（風船を隠す）したり、かけまわったり、指人形を持った人とごっこ遊びをして交流できた。指導者と話したり、作業と一緒に過ごすことが、とても嬉しいという雰囲気だった。



施設関係者の声

- ・パネルシアター、製作、戸外遊びなど、少しの人見しりは見られたが、楽しい雰囲気の中に子どもたちが引かれていく姿が印象的だった。子ども同士で動物の真似をしてみたり、普段自分での動きが少ない子どもの反応が良かったりと、生活だけでは見られない一面もみられた。
- ・パネルシアターではリズムに合わせて身体を動かし、発語も促して頂くことができた。
- ・製作では様々な素材に触れたり、指先を使った遊びを取り入れて頂き指先の強化にも繋がったと思う。

子どもの声

- ・たのしかった。
- ・ありがとう。また来てね。バイバイ。

⑯グリーンヒルキッズゆりのき台「おはなしと色々青虫ストラップづくり」

日時：2021年12月28日（火）13:30～15:30
 場所：ゆりのき台教室
 参加者 12人
 （子ども8人 施設関係者4人）
 指導者：松戸照子 越後久美子 中川香子 鈴木佳子

ワークショップの内容
 軍手にわとりでこんにちは
 パネルシアター「キャベツ青虫」他
 フェルト青虫ストラップづくり



パネルシアター

子どもたちは、初めからリラックスしていた。軍手にわとりが登場し、玉子が産まれ、ひよこがかえると「かわいい～！」と声が上がった。はらぺこ青虫が食べた物が入ってる封筒を配られると、すぐ中を確認し、これどうするんだろうと興味深々。「はらぺこあおむし」の本を聞いた後、自分の持っている食べ物を食べさせた。「〇〇曜日は何だっけ？」という問いかけに、すぐに答える子どもたち、だんだん曜日が進むにつれ土曜日はとても難しいのに、すらすらと自慢げに答えた。「すごいね！」と声かけると、嬉しそうな顔、まるで何てことないよと言いたげな顔だった。材料選びも楽しそう、どの色にしようかワクワクしている様子がみえた。テグスをフェルト3枚の小さな穴に通してビーズを一つ通す、細かな作業でしたけど、みんなていねいに最後まで頑張った。できあがりをみんなにお披露目。かわいいいろんな色の青虫ストラップが出来上がり、自分だけの青虫ストラップに満足そうだった。



材料のフェルトの色
 を選んでね



子どもの声

- ・お話とても聞くのが楽しかった。はらぺこ青虫が久しぶりだったのでわくわくした。ストラップづくりは、大変な所もあったが、作るのが楽しかった。それと青虫に食べ物をあげるのも楽しかった。
- ・かなり細かい作業もあり難しかったけど、だからこそできた時の達成感がすごかった。かわいい青虫ができた（本当に体が青い）キャベツと一緒にかざっておきます。

施設関係者の声

- ・難しい作業（小さい穴にテグスを入れる）でも、とても良く集中して完成することができて、手の器用さがとても見れて良かった。作った青虫、もらった青虫を使って人形劇のように世界観を楽しんでいて、とてもおもしろかった。

⑰養護児童施設ほうゆうキッズ「おもいっきりうごいてダンスワークショップ」

日時：2022年1月4日（火） 13:30～15:30

場所：地域交流スペース

参加者 35人

（子ども31人 施設関係者4人）

指導者：安西真幸 安西千紗 買場都明 棚田純子

ワークショップの内容

- ・準備運動（よードン！ 体を使って遊ぼう！）
- ・遊んでダンス！
- ・ダンス発表

小さい子の組が登場、みんなびよんびよんはねるように入ってきた。指導者に挨拶して、体をつかって遊ぶよ。と、「ジャンプ、ジャンプ！いいね～！」指導者が笑顔で一緒に遊ぶ。次は床を転がる。待っている子たちから拍手！「がんばれ～」歓声が出る。保育さんから離れない男児が元気いっぱいネコの鳴き声をした。「あれ～ネコになったよ」指導者がいうとみんなでネコ歩き。楽しそうにネコになった。音のイメージで思い思いに想像力を働かせて体を使うと、遊んでいるような、ダンスをしているような楽しい遊びに子どもたちは大満足。大きい子組たちはダイナミックに体を使って準備体操の遊び「押しくらまんじゅう」が始まる、「きゃー！」と楽しそうな笑い声が出た。今度はみんなで手をつないで立ち上がる。全員力を合わせて起き上がり拍手と笑い声。施設の中にダンスクラブがあり、やっている子がたくさんいたせいか、体の動きに切れがある。男の子のグループが見事にダンスを見せてくれた。「すごいね～！目指せ、ダンサー！」と指導者からのエールにうれしそう。



子どもの声

- ・はしるのがたのしかった。わにがたのしかった。ジャンボリーミッキーもたのしかった。パプリカがたのしかった。
- ・わにがたのしかった ありがとう
- ・ありがとうございました。楽しかった。私は前からおどることが好きでよくおどっていたけれどダンスが好きになりもっとおどるようになった。ぜひまたダンスを教えてくださいとうれしいです。

施設関係者の声

- ・ダンスの好きな子がダンスの上手な先生に教えてもらえて「上手になりたい」「楽しい」という意欲につながったと思う。



⑱グリーンヒルキッズ村上「おはなしと色々青虫ストラップづくり」

日時：2022年1月10日（月） 13:30～15:30

場所：村上教室

参加者 7人

（子ども5人 施設関係者2人）

指導者：松戸照子 中川香子 鈴木佳子 棚田純子

ワークショップの内容

- 軍手にわとりで「こんにちははパネルシアター「キャベツ青虫」青虫ストラップづくり
- パネルシアター「蜘蛛の巣ぞうさん」「焼いもぐーちょきぱー」「食べられる？食べられない？」



軍手にわとりで「めんどりさん～卵をうんどくれ～」という指導者の歌声に期待いっぱい子どもたち。「21日間温めないと・・・」とみんなで21数える。生まれると「マジックだ！おみごと～」と大きな声があがった。「キャベツ青虫」のパネルシアターでは赤ちゃん青虫から、お父さん青虫と次々キャベツを食べにくる。「かわいい～！」と声が上がリ、食べる度に「消毒！消毒だ～！」と子どもたちが自ら声をかける。絵本「はらぺこあおむし」では、みんなが知っているお話で懐かしそうに聞き入っていた。お話を聞いたら、今度は子どもたちの番、月曜日から毎日食べたものをフェルト青虫に食べさせに行った。いよいよストラップ作り、色々な色の材料の中から「どの色にしようかな？」と選ぶのが楽しそうだった。細かい作業だったけど思い思いの表情の青虫の顔ができた。



子どもの声

- ・楽しかった。
- ・楽しかった。またやりたい。また来れる日があれば来てください
- ・むずかしかった。でも、できて嬉しい。ありがとうございました。

施設関係者の声

- ・先生の説明を聞きながら、集中して取り組む力がついたなと感じた。手先をうまく動かせない子もいたが、指導者の方の支援のお蔭でその子なりにできる事、できるところまでやり遂げ達成感満足感を味わった。楽しいお話に最初から引き込まれ、子どもたちも夢中になる様子を感じとれた。青虫づくりも、こちらの心配は全く要らぬ心配になり、子どもたちも集中して頑張れる様子が見られ（普段見られない集中力でした）良かった。
- ・離席する子もなく最後まで参加できた。はらぺこあおむしのお話のやり取りで（月曜日～金曜日の食べ物）楽しそうに参加していた姿は、とても印象的だった。

今年度の取り組み経過概要 ～コロナ禍で～

- ①計画していた 18 か所のうち、状況の変化から実施直前になって中止になった病院もあり、今年度も病院 4 か所、養護施設 3 か所がコロナ感染予防のため外部の入室ができないということで残念ながら実施できなかった。そこで昨年の経験から QOL や自己肯定感の向上の機会が必要だと思われる児童福祉施設での実施を考え、放課後等デイサービスや養護施設に声をかけ、そのうちの 7 施設で実施が決まった。しかし、コロナ感染予防対策で外からの入室の人数制限のため、団体協力者を減らしての実施が多くなった。昨年に引き続いて実施できたところからは閉鎖感のある子どもたちへアートによるコミュニケーションは QOL 向上に効果的であることが理解され、継続実施をたいへん喜ばれた。
- ②当団体ではコロナ感染防止対策のガイドラインを作成し、事業実施 14 日前から健康チェックシートで、指導者・スタッフの健康チェックをして臨んだ。また、各施設のガイドラインに基づき、感染防止対策の徹底をし、安心と安全を可能な限り保証することを心がけた。

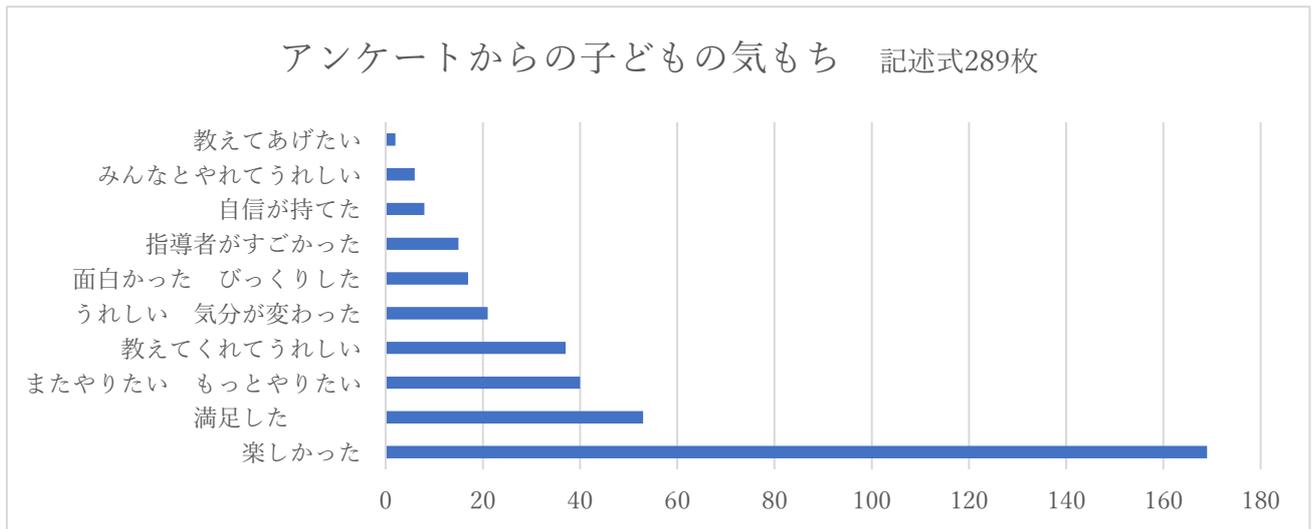
事業の成果と課題

- ①普段の生活の課題とニーズを把握し指導者を選び、遊びや体験ワークショップを提供した。コロナ禍で病院での実施が予定通りにはかなわず、自己肯定感の向上を必要とする実施個所を拡げ、1 病院 7 児童相談所 3 児童養護施設 5 放課後等デイサービス 2 児童施設で計 18 回実施し、560 人（子ども 414 人 大人 146 人）が参加した。 [14 年間の実施実績：12 病院 31 施設 延べ 214 回 9,321 人参加]
- ②長期入院している子どもたちにとって工作で遊ぶ機会は貴重であり、時間を忘れるくらい没頭した、きれいな色で楽しかった、たくさん作りたいという子どもの声がたくさんあった。指導者に話しかけたり自分の思いを形にして、見せ合ったりできて自己肯定感につながった。いろいろな人とのふれあいで笑顔になることが QOL 向上と治療の励みになると以前からも言われており、早くコロナが収束し以前の様に病院を訪問して子どもたちに出会うことを願っている。
- ③コロナ禍でも県内すべての児童相談所で実施できた。一時保護所で施設職員が子どもの不安定な気持ちを受け止めながら様々な体験の機会を作っているが、イベントの中止や外での活動も制限された。あつという間に指導者の世界に引き込まれ、「それ、いいね!」と何気ない表現を褒めてもらい、子どもたちの表情がとてもよく、久しぶりにたくさん動いた、楽しかった、またやりたいという、のびのびと生き生きした様子が見られた。職員も子どもたちと一緒に活動し楽しんで、子どもの想像力や発想力のすばらしさを感じていた。
- ④児童施設では、できない子に教えたり、待つてあげる姿や最後まで楽しむ姿など、普段と違う様子が見られたり、当日の非日常を楽しんだ後日も子ども同士の遊びの中で体験したことを楽しんでいる姿があったという。普段できない経験でワクワクしたり、思い思いの自分の発想を認めてもらって充実感や自信につながった。定期的な訪問を希望する声もあり、期待されている。今年は初参加の指導者もいて子どもの共感者が増えた。
- ⑤指導者と施設をつなぐコーディネーターは、重要な役割を担っている。子どもたちの生活や目標に活かすように芸術を取り入れて、職員と一緒にプログラミングしていくことが大事である。当日はコロナ感染防止にも十分な注意を払い、子どもたちとコミュニケーションをとりながらも最善の時間を作るが、子どもの笑顔が何よりうれしい。



【コーディネーター】 市川淑江 宇野京子 大塚るい 大森智恵子 岡田泰子 買場都明 加藤香都代
笠原直子 桑原信子 椎名好子 塩沢千秋 白鳥みゆき 鈴木佳子 高橋知子
滝口淳子 棚田純子 戸田綾 中川香子 中村雪江 中村幸恵 早川良美
綿貫のばら

◆資料1 子どものアンケートから



●子どもたちのアンケートには「楽しかった」の文字がたくさん

「本当に楽しかった」「久しぶりの運動でとても楽しかった」と、心が解放された様子だった。「やったことがなかったが、やってみたら楽しかった」「こんなに楽しいとは思っていなかった」「いろんなことができて楽しかった」「楽しくていつの間にか笑っていた。」とワークをやりながら自分の気持ちが変わったことに気づいていたり「楽しくて時間が過ぎるのが早かった」と終わるのが惜しい気持ちが出ていた。そして、「モヤモヤが無くなった」「気分転換になってうれしい」「テンションが上がった」と、気持ちが明るく変わったことでうれしくなったり、「うまくできなくても楽しい」「みんなとやれてうれしい」と、一体感を楽しんでいた。

●満足感、達成感、

「久しぶりに汗をかいた」「かわいいのが作れた」「いいのができた」「いろいろ試せた」「いろいろ遊べた」等、やったことできたことの達成感は大い。「自分だけの物」「宝物にする」と愛着を持ち、満足していた。指導者との関わりは大きく、一緒に楽しみ、「周りの人も褒めてたし、僕も褒められた」と一人一人の表現を褒め、受け入れてくれたことは、とてもうれしく、自信となった。

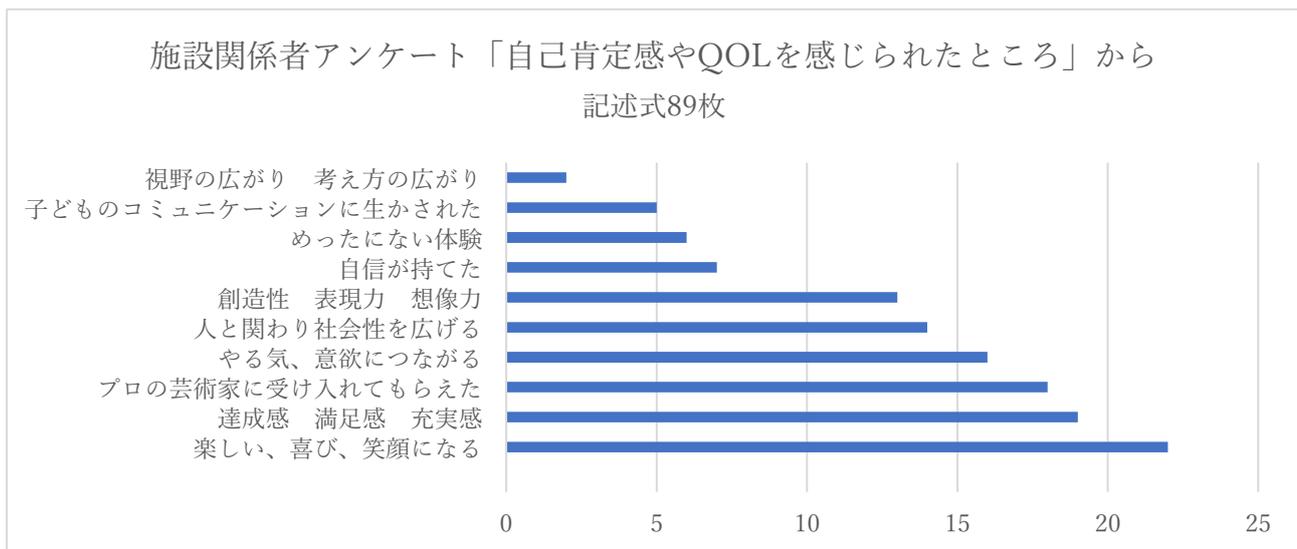
●おもしろかった。発見、驚きから、もっとやりたい、またやりたいへ

「自分がいがいにもできてびっくり」「やってみて好きになった」「少しの工夫でいろいろ作れた」「興味がもてた」「様々な材料にびっくり」新しいことにも「知れてうれしかった」「ちょっと新鮮だな」と、興味が広がった。特にプロの技や表現に驚きの連続。「今度はトンボを作ってみる」「もっと上手になりたい」「またやりたい」とやりたい思いが前向きになり、「毎日ストレッチを始めた」「これを機に練習したい」と動き始めた様子も見えている。

■記述からのよみとり

289枚の記述から、子ども自身が感じた気持ちがいろいろな言葉で表現され、「楽しかった」「うれしかった」「おもしろかった」「びっくりした」が270枚あり93%。「満足した」「自信がもてた」「教えてあげたい」等、満足感や達成感、自信、興味関心や意欲といったもっと深いところで意識の変容が見られる記述がある。子どもたちは、元々育つ力を持っていて、子ども期にこうした出会いが多いほど、自己尊重感情の醸成・QOL向上に繋がると考えられる。

◆資料 2 施設関係者のアンケートから



●楽しい、喜び、笑顔になれて心が解放される

・笑顔だった、明るい表情で、普段見られないような良い表情をしていた ・楽しさを実感していた有意義な時間だった ・生き生きと活動していたのが印象的だった ・ストレスを発散でき、気分転換になった ・気持ちよく過ごせた

●達成感、満足感、充実感を感じていた

・その子なりにやり遂げることができた ・自分の気に入ったものが作れ、自分で作ったものに愛着を持ち、嬉しそう ・自慢げに見せたり、そのリアクションで拍手や注目されて得意げに満足そう ・できたということが成功体験になる

●プロの芸術家に受け入れてもらえたこと

・何気ない動作や表現が採用されてうれしそう ・成功失敗にとらわれなくて活動できる空間だった ・普段できない貴重な体験ができる ・あっという間にパフォーマーの世界に引き込まれた ・指導者が楽しんでいて楽しい雰囲気になった ・得意苦手にかかわらず動ける ・できたことを褒めてもらい、認められたことで満足感が上がる

●創造性、表現力、発想力、想像力につながる

・自由な発想で個性あるものを作っていた ・自分なりの思い思いの作品が作れた ・創意工夫でき、主体的に取り組むことで想像力の向上になる ・自己選択、自己決定の場につながる ・自分を表現していた ・その後の創作活動でも工夫して作成していて、表現したい気持ちがあふれていた

●自信が持てた

・自分の作品をみんなに発表できたことがよかった ・自分の作品の気に入っているところの発表で「全部気に入っている」と話して嬉しそうだった ・できてるよ、見て見ると、自分から見せに来て受け止めてもらえた ・自分を認める、自己承認の場となった。

■記述からのよみとり

個々の多彩な子どもの感情や表現、変化を捉えている。プロによる芸術的な体験ワークショップが、子どもたちにどれだけ多くの心の豊かさを与えているかが、施設等の大人 89 枚の記述から見えてくる。すべての記述がプラス志向であり、その捉えた姿はリアルであり具体的であり、ワークショップの効果が高いことを大人自身が認識し喜んでいる。日常接している子どもたちの成長やびっくりするような発見を、こうした場や機会でも認識できることは、職員や指導者にとっても「学び」になるのではと考えられる。

令和3年度文化芸術による事業に関する
特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
新型コロナウイルス感染防止ガイドライン
(笑顔の贈りもの事業版)

文化芸術による事業を進めるにあたり、新型コロナウイルス感染拡大予防対策として、常に子どもの心身に影響を及ぼさないよう「子どもの最善の利益」を視点におき、とりくむことをガイドラインにまとめました。

1 子ども劇場千葉県センター組織としてとりくむこと

- ・集まる機会、人数を少なくし、施設の定員1/2までとします。発熱のある方、体調不良の方利用、入場を遠慮してもらいます。
- ・施設利用中、出席者はマスク着用の上、距離をとり、換気を行い3密（密閉、密集、密接）にならないよう留意します。
- ・出席者に対し、手洗い・消毒を行い、大声の会話を慎むようよびかけます。
- ・複数の人が使用するトイレ、洗面所、お茶道具をこまめに消毒、洗浄します。
- ・配布物は手渡しを行わず、据え置く方法で行います。
- ・事務局職員、役員は出勤前に検温、新型コロナウイルス感染症状の有無を確認し、体調不良の時は、休養を促し、自宅待機とします。
- ・施設内のゴミの処理、廃棄を徹底します。
- ・外部施設の利用、事業を進めるにあたり、管理する自治体や施設のガイドラインに対応していきます。

2 文化芸術による事業における新型コロナウイルス感染防止のとりくみ

- ・事業実施にあたっては、本ガイドラインそって適切に対応します。
また、施設のガイドラインにも柔軟に対応します。
- ・施設に配置するコーディネーターは実施に関わる指導者、スタッフの健康管理を「健康チェックシート」で確認してから活動を開始します。新型コロナウイルス感染症状の有無を確認し、体調不良の時は、自宅待機とします。
- ・コーディネーター、指導者、スタッフはマスク着用して行動します。
- ・コーディネーターは、実施会場へ消毒液、除菌シートを用意して持参し、対応します。
- ・ワークショップ会場と指導者控室の換気に努めます。
- ・ワークショップ会場での参加者同士の距離のとり方や大きな声の発声などは、指導者と内容を確認したものを施設との事前打ち合わせで示していきます。
- ・コーディネーターは指導者とスタッフの健康状態を施設担当者と確認後、会場への入場をはじめます。（2週間の健康チェックシート）
- ・ワークショップ中に使用する機材、用具、教材の扱いは不特定多数の共有を制限するよう配慮します。
- ・「アンケート」・パンフレット等は手渡し配布を避けます。

「病院、児童福祉施設の子どもたちが自己肯定感を高め、コロナ禍の今をのりこえる、
あそび・交流ワークショップ体験」報告書

発行日：2022年 3月10日

発行者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

発行所：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート新千葉 102号

TEL：043-301-7262 FAX：043-301-7263

メールアドレス：kidchiba@lily.ocn.ne.jp

この報告書の内容を無断で引用・転載することはかたくお断りいたします



病院児童福祉施設で過
ごす子どもが笑顔にな
る贈り物事業 2021